

平成30年度 京都府立峰山高等学校弥栄分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）（案）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動をとおして、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>[成果]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価アンケートでは、生徒・保護者ともに多くの項目で好評価を得た。生徒88%、保護者98%が、「弥栄分校に入学して良かった。」と肯定的に評価している。 2 年度当初の1・2年生一斉家庭訪問や学習支援員によるサポート等の効果により年間をとおして落ち着いた学習環境が維持され、中途退学の防止につながった。 3 学校祭・奈具丘祭をはじめとする学校行事では生徒が主体的に取り組み、その成功をとおして生徒の大きな成長が見られた。 4 弥栄分校独自の取組である「漢字学習」や資格取得・技能認定等の取組が充実した（学校外学修単位認定7名、教育長表彰3名）。 5 専門学科の強みを活かした地域連携や学校間連携を推進するとともに、昨年度に続いて本校産業工学科との課題研究合同発表会を実施し、本校・分校間の連携を深めることができた。 6 支援が必要な生徒や困難家庭等の支援に向けて、京丹後市や児童相談所等の関係機関等と連携の体制づくりを進めた。 7 ホームページの更新を積極的に進め（年更新160件）タイムリーな情報発信に努めるとともに奈具丘通信の発行（年12回発行）など積極的な広報活動を推進した。また、新聞等に延べ40件掲載され弥栄分校の取組が広く地域の方にも発信できた。 <p>[課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 予習、復習、試験勉強など主体的な学習習慣の育成 2 遅刻防止指導の強化及び好ましい生活習慣の確立 3 家庭との連携を重視した組織的な進路指導の推進 4 公共心の育成と学校生活における人権感覚の醸成 5 特別な教育的支援を必要とする生徒への適切な対応 6 丹後通学圏の高校再編に係る準備とスムーズな移行 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体的な参加を促進する授業改善と「漢字学習」等を活用した学習習慣の育成 2 「探求Ⅰ・Ⅱ」、人権学習、特別活動、ボランティア活動の充実による自律性と社会性の育成 3 地域連携、他学科・他校との協働による専門学科教育の特色化並びに地域創生に資する人材育成と進路指導 4 家庭との連携を重視した教育相談及び特別支援教育の体制整備と個に応じた指導の充実

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

（A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
学習指導	生徒の学力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間や生徒対象授業評価を実施し、1年を通して授業改善に取り組み、わかる（丁寧に語りかけ、問いかける）授業を継続的に実施する。 ・シラバスを発行して学ぶ意義や方法を示すことで学習意欲を喚起し学ぶ姿勢を確立させる。 ・校内漢字テスト及び週末課題の取組を通して、家庭学習習慣と基礎学力を身につけさせる。 ・各教科からの長期休業中の課題を取りまとめて整理する。 ・学年と協力して試験前学習会を設定するなどして「勉強して試験を受ける」生徒を増やす。 ・不得意科目を持つ生徒に、振り返り学習・補習などで力をつけさせる。 	A A A A B B	A A A A A A	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間を2度設定し、事後の合評会で授業での工夫や今後の課題などについて有意義な意見交換ができた。生徒対象の授業評価も2度実施し、100%の実施率を達成するなど、積極的に授業改善に取り組んだ。シラバスも計画通り発行した。 ・8回の校内漢字テストとそれに連動した24回の週末課題を実施し、家庭学習習慣の定着、基礎学力の向上に尽力した。 ・ベル着や教室環境の整備は、しっかりとできたクラスがある一方で、課題の残るクラスもあり、全クラスでの実現が求められる。 ・学習支援員の先生方の存在が授業への参加態度改善・参加意欲向上に大きく作用している。年度途中での支援に入る授業の変更などにも臨機応変に対応いただき、ありがたかったが、先生方の負担が大きく、負担の軽減が課題である。
	授業規律の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ベル着を定着させ、50分の授業時間を生かす。 ・教室環境の整備、空き時間の校内巡回、生徒の状況把握等を行い、授業環境を整える。 ・生徒の教材準備点検週間を設け、授業開始前に教科書等を準備する習慣を身につけさせる。 ・学習支援員と協力して授業規律を確保し、意欲的に授業に臨む生徒を増やす。 	B B A A		
生徒指導	ルールとマナーを守る規範意識・道徳意識向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ、挨拶、入室マナー及び交通マナーを向上させる。 ・携帯電話使用に関するモラルとマナーについて向上させる。 ・遅刻防止指導により朝の遅刻者を減らす。 	B B B	B A A A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の登校指導、月1回の巡回指導週間、学期3回の頭髪服装指導を実施し、挨拶、身だしなみ、交通マナー等の向上を図ったが、装飾品・携帯電話使用違反等の指導件数が倍増した。 ・携帯電話、SNS等の指導件数が増加をしている。ネットモラル教育の充実が必要である。 ・部活動の加入者が増加するとともに放課後の活動も活発になってきた。 ・生徒会では生徒会行事の企画立案、運営、月1回のあいさつ運動に積極的に取り組んだ。また、校外清掃2
	生徒会活動の充実と部活動・ボランティア活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が生徒会活動や行事に積極的に取り組むよう指導する。 ・各分掌や各学科との連携を図り、ボランティア活動参加者の増加を目指す。 ・部活動の加入を促し、活性化を図る。 	A A A		

						回、ひまわりの絆プロジェクトのボランティア活動を実施し、昨年度並みの数の生徒が参加した。	
進路指導	3年生全員の進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員に早期に個人面談を実施し、担任、保護者、学科等と連携してより現実的な進路指導を行う。 ・関連機関と連携し、企業情報を的確に把握し、求人確保に努める。 ・進学希望者には、経済面も含めた適切な情報提供を行う。 ・就職、進学ともに模擬面接など必要な受験の事前指導を充実させる。 	B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5月、3年生との全員面談、担任と連携して保護者、本人の意向を踏まえて進路指導を行った。6月下旬から8月下旬にかけて就職希望者には、就職説明会、模擬面接練習を実施、早めの行動を促した。求人票の更新は7月～10月の求人数の多い時期は週1回以上のペースで行った。企業説明会にも参加、求人票依頼、就職につなげたケースもあった。 ・進学希望者は、専門学校希望で全員がAO、指定校で合格を果たした。2年生のインターシップは、方法、時期など課題がある。 	
	1・2年生の進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の取組と連携してキャリア教育を充実させる。 ・探求の授業とも協力して面接指導を行う。 ・11月に幅の広い進路学習会を行う。 	C				B
人権教育	生徒・教職員の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ごとにテーマ設定を行ない計画的に人権学習を行う。 ・人権意識の視野が広がり、生徒理解につながる教職員研修に努める。 	B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年毎に計画に沿って人権学習を実施したが、事前の機器の動作の確認など不十分であったり、担任との連携の点で予定したように進められなかった学習もあり、事前の打ち合わせに課題がある。 ・1年生(いじめ)、3年生(労働法)の学習では、初めて外部講師を依頼した。方法について今後も改善、工夫をする必要がある。 	
	人権尊重の環境整備と人権侵害事象への迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの違いを許容し、相互に人として認め合い、支え合うことのできる雰囲気作りに努める。とくに日頃の言葉遣いを意識する。 ・人権侵害事象に速やかに対応することで早期収束に努める。 	B				B
健康・安全教育	健康保持のために必要な実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果と保健調査から、一人一人の健康状態の把握に努め、健康管理を行う。 ・1学期に生活アンケートを実施し、生活実態を把握し、個別・全体の保健指導を行う。 ・各種講演会や日々の指導により、安定した生活習慣、食生活の確立のための科学的知識を習得させる。 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断や生活アンケートの結果から学期ごとに保健部面談を行い、歯科受診や朝食摂取について個別指導と全体への啓発を行った。 ・実態把握が中心となったため、行動変容に結びつく指導の工夫が必要であった。 ・清掃時のゴミ分別立番(週3回)や校外清掃(1回)、体育祭でのゴミ処 	
	美化清掃活動の推進と学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会によるゴミの減量化に向けての取組と、学校周辺の清掃ボランティアにより校内美化 	A				

		を推進する。 ・安全点検を実施し、改善の必要な所を掌握し、改善を要望する。	A	A	理等、保健委員会が校内美化推進のために主体的に活動できた。	
特別支援教育	配慮を要する生徒へのきめ細かな組織的支援の推進	・「気になる生徒」のチェックリストでの結果を職員会議で報告する等、配慮を要する生徒の課題等について教職員間で日常的に共有し、学習支援員のサポート等組織的に支援する。 ・特別支援教育に関する教職員研修を実施する。	A	B	B	・生徒の実態に合わせ、学習支援員体制について、二度の見直しを行い有効な支援を行った。 ・SCや地域支援センター、精神科医師等と連携を図り、生徒理解を深めた。 ・課題を抱える生徒が多く、教職員研修が必要である。
図書・情報活動	文化に親しむ心の育成	・読書の時間の設定や案内冊子・図書館だよりを発行し、図書館利用の活性化をはかる。 ・情操教育の一環として芸術作品に触れる機会を設定する。	B	A	A	・「立志」の発行、図書館だよりを定期的に発行し新刊図書の案内等を行った。今年の図書館蔵書利用状況は、延べ170人250冊であった。 ・芸術鑑賞は、演劇部門を午後の部で本校と合同で鑑賞した。内容もわかりやすく、生徒の評価も良かった。
家庭・地域連携	P T A役員と密な連携によるP T A活動の充実	・P T A活動への参加を促し、委員会活動を充実させる。	B	B	A	・PTA役員を中心に活気あるPTA活動が実践されており、総会・学校祭・奈具丘祭等にも多くの会員の出席があった。(延べ112名) ・会員研修においては専門学科の特色を活かした内容に取り組んだ。 ・広報活動として、ホームページ情報更新を多く先生からしていただき約180件の更新を行った。
	ホームページの更新等、積極的な広報活動の推進	・校内からの情報提供を受け、学校行事等に合わせタイムリーに継続的に活用する。	A	A		
専門学科教育	専門学科での学びを活かし生徒自身が主体的に行動できる力を育成する	・丹後の地域特色を踏まえた授業を展開し丹後の魅力を理解することによって郷土愛を醸成する。 ・生徒が目的意識を持って各種の連携に取り組み成果を生徒自身・地域・連携先等に還元する。 ・資格取得等の取組を通して自己肯定感を高めるとともに教育長表彰者数を増やす。 ・専門科目の学習をとおり職業意識を向上させる。	B	A	B	・専門科目の特徴をいかして、地域の課題に目を向けた学習を進めることができた。関係機関との連携により多くの支援をいただき生徒の目的意識を高めることができた。 ・資格取得では増加単位に該当する生徒は増えたが、教育長表彰者の増加には至らず課題となった。
普通教科教育	社会生活に必要な基礎学力と自ら考	・全生徒が意欲的に学習し、達成感を味わえるよ				・ユニバーサルデザインの授業や主

	える力の育成	<p>うなユニバーサルデザインの授業、また将来の職業選択に必要なスキルが身につくような具体例を多用する授業を行う。</p> <p>・生徒同士での意見交流や全体に向けての発表など、主体的・対話的で深い学びを体感する機会を増やす。</p> <p>・普通科会議を定期的に行い、生徒理解を深め組織的な指導を行う。</p>	B		B	<p>体的・対話的で深い学びについて、各教科でその実施を模索した。</p> <p>・普通教科会議を学期ごとに複数回実施し、授業方法、評価などについて有意義な意見交換を行った。今後も引き続き実施したい。</p>
--	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	--	---	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学科の魅力を生かした教育活動が展開されている。教育内容を一層充実させ明確な方向性をもつ活力ある学校を目指してほしい。 ・生活面において生じる新しい課題について、家庭との連携を密にし効果的な指導を行ってほしい。 ・生徒及び保護者の満足度が高まるよう経験豊かな人材を活用するとともに若手職員の育成に努めてほしい。
-------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度に 向けた改善の 方向性	<p>平成28年度から30年度の3年間、およそ2割ずつ生徒数が増加しており、さまざまな影響が見てとれる。リーダー層の生徒が増え、部活動が定着するなど学校が活性化に向かう一方で、規範意識の低下や「自分がやらなくても誰かがするだろう」といった他人任せの風潮も感じられる。また、個別対応を中心とするきめ細やかな指導・支援が行き届きにくくなり、効果的なガイダンスにより集団全体を動かす指導方法への切替えが必要となっている。</p> <p>次年度はこれまでに継続して取り組んできた専門学科教育の魅力を一層強め、生徒一人一人に日々成長を遂げていることを実感させたい。また、地域の人材や教育資源を活用しながら、弥栄分校での学びが自分の将来を切り拓くとともに地域社会への貢献につながることを自覚させたい。</p> <p>年々、不登校傾向のある生徒、特別な教育的支援が必要な生徒の入学が増え、併せて家庭環境に深刻な課題が見られるケースも出てきている。学習支援員の活用により個々の生徒の学習を促進するとともに、スクールカウンセラー、教育支援センター、学び生活アドバイザー、その他の関係機関の協力を得ながら困難なケースにもしっかりと対応したい。</p> <p>学校運営の効率化と組織化に努め、自律的な高校生活の実践と自分の能力と適性を踏まえたスムーズな進路実現に結びつけたい。</p>
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------